日本学校教育相談学会第37回中央研修会　案内文

＜基調講演＞　いじめの重大事態への対応（新井肇先生）

2024年度のいじめの重大事態は1404件と調査開始時の8倍近くに増加し、自殺など深刻な事態の発生も後を絶ちません。また、「いじめ防止対策推進法」（2013年）や「重大事態の調査に関するガイドライン」（2024年改定）等に沿った対処および調査が行われていないケースも散見されます。そのため、適切な重大事態調査の実施、重大事態の発生を防ぐ平常時からの備え、発生時の学校内外の連携・協働に基づく組織的対応、をどう具体化するかが喫緊の課題となっています。

そこで、法の理解に基づき、いじめの現状と防止対策の課題を共有したうえで、背景調査における留意点、重大事態の未然防止のためのリスクマネジメント、「社会に開かれたチーム学校」による組織的対応の実際について、事例も取り上げて検討したいと思います。「いじめ見逃しゼロ、重大事態ゼロ」をめざして、児童生徒の心の叫びに向き合う学校教育相談の実践的方向性を探ることが本講演の目的です。

＜パネルディスカッション＞　いじめの重大事態から学ぶ学校教育相談の役割と可能性

いじめの重大事態の増加に伴い、本学会会員をはじめとする学校教育相談関係者が、教職員として、教育行政関係者として、あるいは第三者委員として、調査に当たる機会が増えています。重大事態の調査には、膨大な時間と労力が注がれることとなります。調査が長期化し、年単位となることも珍しくありません。このような重大事態が起こってしまった場合、そして重大事態を起こさないために、学校教育相談に何ができるのでしょうか。

本パネルディスカッションでは、パネリストとして、臨床心理学の立場から石川悦子先生、法律の立場から真下麻里子先生、そして学校教育相談の立場から中村豊先生をお招きし、新井肇先生に指定討論をお願いいたしました。我が国における斯界の第一人者の先生方とともに、いじめの重大事態への対応について、学校教育相談の果たす役割について、またいじめの重大事態から何を学ぶことができるのか、ぜひご一緒に考えてみたいと思います。

＜Aコース＞　エデュケーショナル・マルトリートメントを予防する教育相談の役割（武田信子先生）

教員離職者は 1319 人に上り、過去最多を更新しました（2024 年度文科省学校教員統計調査中間報告)。休職者は 7000 人を超えています。少子化にもかかわらず、学校から生徒も教員も離れていっています。一方で、生徒指導が困難な子どもたちが増え、特別支援の必要性が高まっています。

東京都教職員職場復帰訓練初代非常勤心理職であった私は、1990 年にはこの状況を予測し懸念していました。でも大きな流れは進んで 36 年経ってしまいました。

私は今、大人が「子どものため」という名目や意図で行うものの、実際には子どもの心身の健康や発達にとって不適切な行為・関わりが起きてしまうことをエデュケーショナル・マルトリートメント（EM）と名付け、学校教育のリフレクションを呼びかけています。

本コースでは、教育相談担当者が、地域社会、学校社会の一員として、個人として、今からできることを考えます。一緒に考えて下さる方の参加をお待ちしています。

＜Ｂコース＞　学校における自殺予防教育（阪中順子先生）

2025 年に児童生徒の自殺者数が過去最多の 538 人となり、4 年続けて 500 人を超えるという深刻な状況の中で、2025 年 6 月には自殺対策基本法が改正され、自殺予防は「学校の責務」であると明記されました。文部科学省も、ここ数年の通知において、年 1 回は自殺予防教育を実施するように求めています。

児童生徒が自殺予防教育の目標である「自他の心の危機に気づく力」と「相談する力」を身につけるためには、教職員が児童生徒の SOS をしっかりと受け取り、揺れる思春期の心を支えることが求められます。また、その土台として、安心安全な学校環境・学校風土を築き、すべての子どもが学校を居場所として感じられるようにすることが不可欠です。そのような視点から、これまで取り組んできた自殺予防教育の概要について紹介するとともに、一部を体験していただき、本講座では学校における自殺予防教育の方向性・実際・課題について学び合う機会にしたいと思っています。

＜Ｃコース＞　事例に学ぶ不登校の理解と支援（金子恵美子先生）

不登校児童生徒数は高止まりの状態が続いており、多様な学びの場の整備なども進められています。不登校の背景にはさまざまな要因が関連しており、また子どもや保護者の状態や置かれた環境もそれぞれに異なるため、子どもとその保護者に寄り添いながらも有効な支援を見出すことに難しさを感じることもあります。『生徒指導提要（改訂版)』では、

子どもに関わる課題や問題について、アセスメント（児童生徒理解）を行い、それに基づいて支援計画を考え、組織的に対応することが重要であると述べられています。

本研修では、アセスメントを行う際の留意点、学校教育相談におけるアセスメントの特徴などについてもふれながら、複数の模擬事例について検討し、不登校の状態にある子どもや保護者への支援について考えてみたいと思います。

＜Ｄコース＞　ネット、ゲーム依存の理解と対応（三原聡子先生）

ネット依存、ゲーム行動症の子供の増加、また、低年齢化が加速しています。久里浜医療センターは 2011 年 7 月、日本で初めて「インターネット依存専門治療外来」を開設しました。それから約 15 年が経ちましたが、コロナ禍やギガスクール構想、AI の発展など、子供たちを取り巻く環境や、インターネット内の状況も変化し、その依存対象も大きく変化していきます。そのような中で、我々はネット、ゲームに依存する子供たちに何ができるのでしょうか。

本研修では、依存のメカニズムや状態像といった基本的な考え方や、子供たちがなぜ依存するのか、それに対してどのような支援ができるのか、また予防方法について、最新の研究を交えてお話いたします。今後、サービスが変化していっても対処できる、基本的な考え方をお伝えできたらと思っています。